

# Welcome to our Seminar!

Vol.17

私たち久保ゼミは、主に 20 世紀のアメリカの文学を対象に研究しています。これまでに F・スコット・フィッツジェラルド、トルーマン・カポーティ、アリス・ウォーカー、トニ・モリスンといった作家の作品を扱ってきました。ゼミではこれらの作品を全員で読み、さまざまなアプローチから作品への理解を深めています。文学作品の奥深いところは、同じ作品でも観点を変えることによって、まったく違う解釈をすることができることです。



久保ゼミでは、30名のゼミ生が学年の垣根を超えて活動している

前期のゼミでは、先生から指定された文学作品から好きな作品を選び、個人で発表をします。後期は少人数のグループに分かれてチームで一つの作品について考察をし、発表を行います。発表をする目的は、ゼミ全体でそれぞれの作品についての理解を深め、ゼミ論・卒論を書くための知識を蓄えるためです。そのため、発表者は発表箇所について念入りに準備を進め、メンバー全員が理解を深められるよう工夫をしなければなりません。ただ本を読んで発表を行うのではなく、図書館で参考文献を調べ、知識を深めるなど主体的な行動力が必要となります。

文学というと、一見、社会に出てから必要な知識とは無縁のように思われがちですが、ゼミでの研究を通して、言語能力・想像力・行動力が主に養えると私は考えています。まず、作家た

## 文学研究とは

## 20世紀 アメリカ文学から 学ぶこと

KUBO Naomi Seminar

# 久保尚美ゼミ

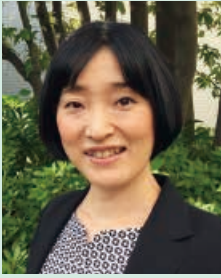


はるた こうき  
春田 航季

文学部人文社会学科  
英語文学文化専攻4年  
Cinco Ranch High School出身  
(アメリカ・テキサス州)



2018年夏のゼミ合宿は、山梨県の石和温泉へ1泊して実施。少人数のグループに分かれて議論の仕方やプレゼン発表の練習を行い、親睦を深めた



文学部准教授  
久保 尚美

## 文学作品研究と想像力

ちが描いた作品の微妙なニュアンスや表現を正確にくみ取るために言語能力が重要になります。そして、自分が生まれる前の時代や世界を舞台にした作品を読むので想像力が必要です。また、資料を集めるためには主体的に行動する力も必要になります。文学研究を通して、世界各地の歴史・言語・思想・社会を学ぶことが文学の魅力だと感じています。

共生の姿勢が現代のグローバル社会には必要だと考えるようになりました。

### ゼミでアメリカ文学を学ぶ意味

たとえば、現代でこそ『ハンガー・ゲーム』や『ワンダーウーマン』といった有名な映画に登場する女性のような、いわゆる「強い女性」というのは数多く存在しますが、18世紀ごろのアメリカでは“true womanhood”という、女性は自己を捨てて男性に服従し、家庭を守るのが「真の女性らしさ」であるという規範がありました。3年次にルイザ・メイ・オルコットという女性の作家の『愛の果ての物語』という作品を読む機会がありました。この作品には、女性を権力で支配しようとする男性に立ち向かう強い女性が登場

します。オルコットは作品のキャラクターを通して、当時の女性が男性中心の社会に対して持っていた不満を訴えているのです。この作品をきっかけに、社会環境が変化するなかでの男女の在り方に興味を持つようになりました。現在、私はゼミでトルーマン・カポーティの代表作である『ティファニーで朝食を』について研究しています。この作品では、ホリー・ゴライトリイという自由奔放な性格の、世界を飛び回り、何かに束縛されることを嫌う女性が登場します。一見すると彼女の動機は不明ですが、この作品の舞台である1940年代のアメリカ社会に着目すると、男性は外で稼ぎ手として仕事をし、女性は家で家事・育児をするという性別役割分業に基づく家族

モデルが定着し始めた時代背景があることに気づきます。つまり、女性の居場所は家庭だけに限定され、外で働く男性を支えることだけを役割として求められる時代があったのです。カポーティはホリーというキャラクターを通して、その当時のアメリカ社会における男女の在り方を限定してしまうやりに反発していたことが作品全体から読み取れます。

その時代を生きていた作家が、どのような想いで作品を描いたのかを知ること、そして、その想いをくみ取り、現代社会の在り方やそこに生きる私たちの姿勢を考えていくことが文学研究の醍醐味であり、学ぶ意味だと思います。

私たちのゼミでは、20世紀のアメリカ小説を対象とした文学作品研究を行っています。扱う

かれる世界と、そこに生きる登場人物たちが少しずつ鮮明に私たちのなかに立ちあらわれてきます。

向きあい、粘り強く自分の解釈を深め、推敲を重ねながら、1年間の学びの集大成となる作品論を書き上げます。

作品はさまざまですが、ゼミではまず作品を構成している一つひとつの文章を丹念に読むとともに、作品の背景となるアメリカ社会に関して、歴史、社会思想、人種、ジェンダー、地域性といった枠組みを学び、それらを通して作品を読む方法を身につけます。テキストとコンテ

クトの双方を深く読み込むにつれ、作品に描かれる世界と、そこに生きる登場人物たちが少しずつ鮮明に私たちのなかに立ちあらわれてきます。授業では皆さんに作品の解釈を発表してもらい、他のゼミ生とのディスカッションを繰り返していきます。それにより、自分の考えを的確に相手に伝える力や、多様な解釈の可能性を知り、多面的なものごとを見る力がつくことを期待しています。そして、学年末にはゼミ論文の執筆を行います。あらためて一人で作品と

作品を読み解くとき、皆さんは自分とは異なる世界に生きる人の声を聞き取ろうと、学んだ知識を活かし、想像力を懸命に働かせているのではないのでしょうか。これからさらにその力が鍛えられ、深まっていくよう、皆さんの後押しをしたいと思います。